●発行／帝京大学医学部附属病院 医療連携室 〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1 TEL.03-3964-9830 FAX.03-3964-9849
●HP／http://www.teikyo-hospital.jp/ ●E-mail／renkei@med.teikyo-u.ac.jp

TEIKYO

医療連携だより［アシスト］

ASSIST

2018.2
No.43

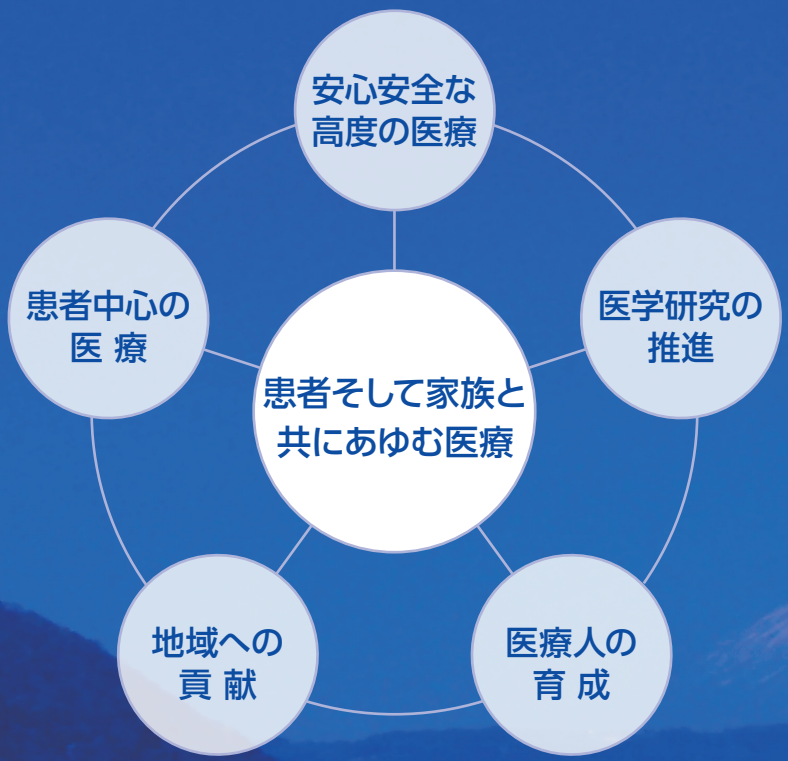
帝京大学医学部附属病院

contents

内視鏡治療のご紹介
帝京大学医学部内科学講座
講師　小田島 慎也

教授就任のご挨拶
帝京大学医学部外科学講座
教授　深川 剛生

第8回
合同市民公開フォーラム
のご案内



内視鏡治療のご紹介

消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療チームとしての技術向上を目指して

帝京大学医学部内科学講座
講師 小田島 慎也

食道、胃、十二指腸、大腸などの消化管腫瘍に対する内視鏡治療は、2000年に本邦にて開発された内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）によって大きなブレイクスルーを果たしました。内視鏡治療が『可能』という言葉には、『内視鏡で切除できれば根治と言える』という理論的な意味と、『内視鏡で技術的に切除できる』という技術的な意味がありますが、ESDが開発される以前には『理論的』に内視鏡切除を推奨できる病変の多くが『技術的要因』で内視鏡切除ができませんでした。しかしこのESDの登場により、これらの理論的条件を満たす病変のほぼすべてを技術的に内視鏡で切除できる時代になっています。

しかし、ESDにもいくつか問題点があります。その一つは技術的難易度や出血・穿孔などの偶発症の危険性が高いという点です。特に大腸、十二指腸は、その難易度と危険性が高く、その技術を有する医師も限定されているのが現状です。またESDの手技が優れているがために、結果的に内視鏡治療の適応に入らない病変までもESDによって『切除できてしまう』ということもしばしば起こり得ます。これは術前内視鏡診断の精度の限界のため避けることができない問題ではあるのですが、この場合患者さんはESDを行った後に追加治療の必要性が判明するために2度目の治療を追加する必要が出てきます。そのためこのESDを専門的に行う施設は安全に切除ができる技量と質の高い診断能、そして長期的にこれらの技術を安定して提供できる教育体制が必要になります。

私はこれまで、これらの消化管腫瘍の対する内視鏡診断とESDを中心とする内視鏡治療を専門とし、前職ではこれらの診断・治療に加えて、内視鏡治療部門のチーフとして治療体制の構築と後進の育成に力を注いで参りました。これまでに当院もこれらの疾患に対する内視鏡診断から治療までをしっかり行っている土壌は出来上がっておりましたが、さらにそれらの内視鏡診断能・治療技術の向上を治療チーム全体で目指していきたいと思っております。患者さんもしくはご紹介いただく先生方に安心していただける医療を長期的に展開できるように頑張って参りますのでご支援よろしくお願い致します。

ESD施行時の様子（国外ライブデモンストレーションにて）

帝京大学医学部内科学講座　講師
小田島 慎也　（こだしま しんや）

平成12年　北海道大学医学部卒業
平成12年　東京大学医学部附属病院内科
平成13年　関東中央病院内科
平成14年　亀田総合病院消化器内科
平成16年　東京大学医学部附属病院消化器内科医員
平成20年　東京大学大学院医学系研究科修了
平成21年　東京大学医学部附属病院検診部助教
平成22年　東京大学医学部附属病院消化器内科助教
平成29年10月より現職

お問い合わせ先：
帝京大学医学部附属病院
医療連携室
TEL：03-3964-1498
FAX：03-3964-9849
紹介状をお持ちの方の
初診外来予約。

教授就任のご挨拶

上部消化管外科診療のさらなる発展を目指して

帝京大学医学部外科学講座
教授 深川 剛生

２０１７年11月より外科学講座（上部消化管外科）教授に就任いたしました深川剛生（ふかがわたけお）です。私は東京大学を１９８８年に卒業し、２００２年より国立がん研究センター中央病院胃外科に勤務し多数の胃がん症例を経験しました。これまでの経験を帝京大学外科にて患者さんの治療および若手外科医や医学生への教育に還元したいと考えています。

我が国では胃がんの患者さんが諸外国に比べて多く、胃がんの診断と治療において世界をリードしてきました。内視鏡技術の進歩とともに早い段階で胃がんが発見できるようになり、胃がん手術において最も重要な〝Ｄ２リンパ節郭清〟が我が国で確立され、日本の治療方針が世界標準とみなされています。世界の消化器外科医が日本を訪れ研修をしていますし、私は世界各国で胃がんについての講演と手術指導を行ってまいりました。

ここ数年胃がんの手術は「低侵襲」ということが大きなテーマとなっています。その代表格である鏡視下手術はかなり一般化してきましたが、日本胃癌学会による胃癌治療ガイドラインにも記載されている通り適応を考慮しつつ行う必要があります。当院には最新のロボット手術機種が導入されておりますので時代の要望にお応えすることが可能です。そのなかで「低侵襲性」が患者さんにもたらすことができる利点を追求したいと思います。周術期において栄養状態や免疫状態を改善すること、術後の食事不振・体重減少を栄養療法によって改善すること、これらは術後合併症や後遺症などの周術期の問題を改善し、ＱＯＬを向上させるだけではなく、悪性疾患の治療成績そのものを向上させる可能性があります。

進行した胃がんは、手術だけではなく化学療法の併用によって治療を行います。ステージⅡ／Ⅲ胃がんに対する周術期化学療法は既に確立された部分もありますが、今後進行胃がん治療の中心となってきます。かつては治癒できなかったステージⅣ胃がんの中にも化学療法奏功後の手術によって治癒できる症例が出てきました。「治らない」と考えられていた患者さんでも「治せる」可能性が出てきたのです。また胃がんの最大の敵である「腹膜播種」の治療には困難が伴いましたが、「腹腔内化学療法」が従来の全身化学療法に比べて効果が優れている可能性が示唆されています。当科は東京大学チームとともに多くの臨床試験を行い、基礎研究面でも多くの実績がありますので、我が国における腹腔内治療の拠点として多くの患者さんの要望に応えたいと思います。

これまでに確立された世界に誇るべき日本の胃がん外科治療の上に「低侵襲性」「周術期管理」「化学療法との連携」「基礎研究に基づく個別化」を載せて、医師だけではなく看護・栄養・薬剤・心理・基礎研究などの他分野との協力の中で「総合的がん医療」を目指していきたいと考えています。何卒よろしくお願い申し上げます。

帝京大学医学部外科学講座 教授
深川 剛生 （ふかがわ たけお）

1988年　東京大学医学部医学科　卒業
　　東京大学医学部第一外科　入局
1997年　国立がんセンター中央病院がん専門修練医
1999年　東京大学医学部第一外科助手
2000年　三井記念病院消化器外科科長
2002年　国立がんセンター中央病院外科医員
2006年　国立がん研究センター中央病院外科医長
2007年　米国留学(MDアンダーソン、スローンケタリングがんセンター等)
2017年　11月より現職

お問い合わせ先：
帝京大学医学部附属病院
医療連携室
TEL：03-3964-1498
FAX：03-3964-9849
紹介状をお持ちの方の
初診外来予約。

【一般市民対象】第8回日本大学医学部附属板橋病院・帝京大学医学部附属病院 地域がん診療連携拠点病院

合同市民公開フォーラム

もっと知ろう！ がんの正しい知識

胃がん・子宮がん

総合司会：帝京大学医学部内科学講座 准教授 **渡邊 清高**

12:30 **開　場**

13:30 **開会の辞** 帝京大学医学部附属病院 病院長 **坂本 哲也**

ごあいさつ 板橋区役所 健康生きがい部 部長 **渡邊　茂**
板橋区医師会 会長 **水野 重樹**

13:40 **第1部**

胃がん

座長 日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野 主任教授 **森山 光彦**
演者 帝京大学医学部外科学講座 教授 **深川 剛生**
演題 **「胃がんを治す ～知っておきたい胃がんの話～」**

14:30 **休憩**

14:50 **第2部**

子宮がん

座長 帝京大学医学部産婦人科学講座 主任教授 **綾部 琢哉**
演者 日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野 主任教授 **川名　敬**
演題 **「増え続ける子宮がん ～自分と家族を守るためにできること～」**

15:40 **質疑応答**

15:55 **閉会の辞** 日本大学医学部附属板橋病院 病院長 **徳橋 泰明**

開催日程
2018年3月10日(土)13:30-16:00

場所 帝京大学本部棟２階　臨床大講堂

対象 区西北部を中心とした都民または近隣エリア在住の方

定員 350名(先着順)定員になり次第締め切りとさせていただきます。

申込方法 FAXまたは郵送(裏面の申込用紙をお使いください。お電話では受付しておりません。)
後日、参加証をお送りいたします。

参加費 無料

申込受付開始日 1月27日(土)

共催：日本大学医学部附属板橋病院、帝京大学医学部附属病院、板橋区、板橋区医師会
後援：東京都、北区医師会、豊島区医師会、練馬区医師会
協力：がんサポートコミュニティー、リリー・オンコロジー・オン・キャンバス

第8回日本大学医学部附属板橋病院・帝京大学医学部附属病院　地域がん診療連携拠点病院

合同市民公開フォーラム参加申込書

2018年3月10日（土）13:30～

（開場12:30）

参加ご希望の方はこちらの用紙に必要事項をご記入の上、下記FAX番号にてお申込みください。
後日、参加証をお送りいたします。（※お電話での受付はしておりません）

FAX:日大 03-3972-8219　FAX:帝京大 03-3964-9849

ふりがな	
お 名 前	
住　　所	〒
年　　齢	
電話番号	（昼間連絡がとれる番号）

申込書をご郵送する場合は、必ず上記のFAX参加申込書記入の上、下記のどちらか一方にご郵送ください。

◎日本大学医学部附属板橋病院　がん相談支援センター宛

〒173-8610　板橋区大谷口上町 30-1　TEL.03-3972-8111（代表）内線3169

◎帝京大学医学部附属病院　医療連携室宛

〒173-8606　板橋区加賀 2-11-1　TEL.03-3964-9830（ダイヤルイン）

質問コーナー

（お時間の都合により、すべての質問に関してご回答できません。
当日、先生が代表的な質問に回答しますので、予めご了承ください。）

Ⓐ

帝京大学病院では紹介状があれば初診でも予約※ができます。

※事前にお電話下さい

医療連携の流れ

帝京大学病院では、かかりつけ医との機能分担をすることにより、専門的な治療（手術、入院、精密検査など）をおこないます。

患者さん

かかりつけ医
（地域医療機関）

紹介状
（診療情報提供書）
- 専門的な治療
- 精密検査
（MRI・CT 検査）
- 入院
- 手術

逆紹介・ご返送

ふたり主治医制

（紹介状のない方は選定療養費として5,400円ご負担いただきます。）

帝京大学医学部附属病院
予約専用（医療連携室）
03-3964-1498

予約受付時間	
平日	8：30～17：00
土曜日	8：30～12：30

初診受付

診療受付時間	
平日	（予約あり）8：30～14：30
	（予約なし）8：30～11：30 13：00～14：30
土曜日	8：30～11：30

紹介状をお持ちの患者さん

①予約電話（**03-3964-1498**）までお電話ください。
電話予約の際にご確認させていただく項目
（お名前、生年月日、性別、住所、電話番号など）
②予約完了
③当日は15分前までに初診受付までお越しください。

紹介状をお持ちでない患者さん

◎初診受付
診療受付時間 平日 8:30～11:30／13:00～14:30
土曜日 8:30～11:30
直接初診受付へお越しください。
※当日の診察状況によっては受診できない場合もございます。

上の地図は略図のため、実際の地形とは異なりますのでご注意ください。

❶ JR埼京線 十条駅
- 北口より徒歩約10分
- 北口ロータリータクシー乗り場より約6分

❷ 都営三田線 板橋本町駅
- A1出口より徒歩約13分
- A1出口より約6分

❸ JR埼京線 板橋駅
- 西口①番のりばより
帝京大学病院経由、王子駅行き 王22（約8分）
「帝京大学病院」バス停下車
西口より約9分

❹ JR各線 赤羽駅
- 東口⑤番のりばより
高円寺駅北口行き 赤31（約11分）
「姥ヶ橋」バス停下車徒歩約5分
- 西口⑨番のりばより王子駅行き 赤50（約14分）
「上十条四丁目」バス停下車徒歩約5分
- 西口より約12分

❺ JR京浜東北線・東京メトロ南北線 王子駅
- 北口⑥番のりばより
帝京大学病院経由、板橋駅行き 王22（約12分）
「帝京大学病院」バス停下車
北口より約9分

❻ JR各線・東京メトロ各線 池袋駅
- 西口より約16分

❼ 東武東上線 上板橋駅
- 北口①番のりばより王子駅行き 王54（約13分）
「姥ヶ橋」バス停下車徒歩約5分

❽ 東武東上線 ときわ台駅
- 北口①番のりばより王子駅行き 王54（約9分）
「姥ヶ橋」バス停下車徒歩約5分
- 北口より約12分

※所要時間は日中平常時、最短時間の目安となっておりますので、時間帯や道路状況により異なります。
タクシーをご利用の場合　バスをご利用の場合　徒歩の場合

TEIKYO
特定機能病院
地域がん診療連携拠点病院
東京都災害拠点病院

帝京大学医学部附属病院
〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL.03-3964-1211（代表）
お問い合せ E-mail/renkei@med.teikyo-u.ac.jp

医療連携だより［アシスト］
ASSIST
帝京大学病院 検索
www.teikyo-hospital.jp

皮膚科 (Department of Dermatology)

スタッフの専門領域(皮膚一般に加えて)

多田弥生	主任教授	乾癬、アトピー
大西誉光	准教授	皮膚腫瘍
鎌田昌洋	講師	水疱症、アトピー、乾癬
石川武子	助教	皮膚外科
田中隆光	助教	皮膚外科　静脈瘤
福安厚子	助手	皮膚外科
冨田　学	臨床助手	膠原病
林耕太郎	臨床助手	乾癬
深谷早希	員外助手	静脈瘤

診療の特色

帝京皮膚科は全員が皮膚ジェネラリストとしての誇りをもって、専門に偏ることなく、都内近隣や埼玉県からの多くの紹介症例に対応しています。一方で高度医療機関に属する皮膚科として専門外来では、各疾患について豊富な臨床経験を有する医師が診療にあたっています。さらに 2017 年 12 月より静脈瘤センターを設立しました。

いずれの専門外来もまず、午前の初診外来の受診が必要です。

専門外来について

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前			レーザー外来	レーザー外来		乾癬外来
午後	水疱症外来 アトピー外来		皮膚外科外来 乾癬外来	皮膚外科外来	皮膚外科外来 乾癬外来	

レーザー外来

渡辺晋一前教授は日本で最初に Q スイッチルビーレーザー装置を東芝とともに開発し、太田母斑にレーザー治療が有効であることを初めて世界に向けて帝京から発信した、レーザー治療のパイオニアです（N Engl J Med 331:1745-1750, 1994）。そのため、本専門外来には今も全国各地から多くの患者さんがいらしています。引き続き、20年以上にわたる豊富な症例の蓄積を背景に、良性と悪性、レーザー効果のあるなしのアザ・シミの正確な診断を行なって、適切な治療をしています。美容目的のシミのレーザー治療も自費診療にて行なっています。

皮膚外科外来

国内外で皮膚外科診療のエキスパートとして有名な大原國章先生の教えをうけた医師が良性・悪性腫瘍、熱傷などの手術・治療に積極的に取り組んでいます。また皮膚腫瘍では、正確な診断が治療方針にかかわることが多く、皮膚腫瘍診断学の専門家である大西准教授を中心に、この分野での症例報告も数多く行なっています。このように診断、治療の両面において、専門チームで対応することで、当外来の専門性はさらに向上しています。

乾癬外来

乾癬は、厚い鱗屑を伴う紅斑を特徴とし、人目につくため、患者 QOL を著しく低下させている皮膚疾患です。乾癬外来では患者の重症度と生活スタイルにあった治療（外用治療、内服治療、最新型である UV7002 の光線療法、生物学的製剤）を提供しています。帝京大学は乾癬においては国内でも有数の専門施設であり、毎年１００人以上の新規の乾癬患者さんに対応させていただいております。特に、多田教授、鎌田講師、林助手は関節炎を伴う乾癬、膿疱性乾癬など重症型の乾癬治療経験も豊富です。お忙しい方、遠方からお越しの方のために、生物学的製剤の土曜日投与にも対応させて頂いております。診断に迷う症例の確定診断もさせて頂いておりますので、お気軽にご紹介ください。

水疱症外来

水疱性類天疱瘡、後天性表皮水疱症、尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡、線状 IgA 水疱性皮膚症など、自己免疫性水疱症（後天性水疱症）の治療を行います。

全身に水疱、痂皮（かさぶた）、紅斑、小膿疱（うみ）などがみられる場合や、他の病院や診療所で水疱症を疑うまたは水疱症と診断された場合、まずは平日午前中の初診外来を受診して頂き、診察及び検査を行います。水疱症の診断が確定した上で、入院または外来でそれぞれの患者さんに合った治療を行っていきます。

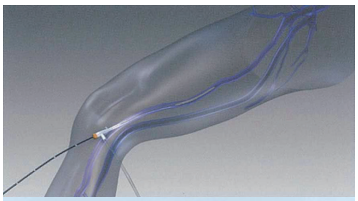
アトピー性皮膚炎外来

難治のアトピー性皮膚炎に対する治療を行っております。具体的には、ステロイド･タクロリムス外用療法の他、シクロスポリン内服、光線療法を行っています。また、近日中に、dupilumab という生物学的製剤が承認適応される予定です。それぞれの患者さんにあった治療を相談しながら行っていきます。

アトピー性皮膚炎があり、病院に通っているけど治らない、皮疹はかなりよくなったがもう少しよくなりたい、塗る範囲が広すぎて継続できない、塗る時間がないまたは塗るのが億劫でその他の治療法を試してみたい、話を聞きたいなどありましたらご相談下さい。

静脈瘤センター

中高年の 15%程度に下肢静脈瘤があるといわれています。典型的な症状としては、夕方にひどくなる足のむくみやだるさ、こむらがえり、足首周囲の色素沈着、繰り返す湿疹などがあります。また、血栓ができて疼痛を伴ったり、難治性の潰瘍ができて日常生活に支障をきたします。しかし、このような症状があっても患者さん自身が静脈瘤と認識していないことがあります。上記のような症状でお困りの方がいらっしゃいましたら、まずは皮膚科へご相談ください。原因が静脈瘤であるか超音波で検査します。さらに、静脈瘤センターにて現状の評価と硬化療法や手術など適切な治療をご提案させていただきます。また、2014 年に保険適応された血管内高周波焼灼治療は傷を残さずに静脈瘤の根治治療を目指すもので、今後導入予定です。導入次第、皮膚科ホームページ上でお知らせしますので、適応のある患者さんをご紹介ください。



皮膚科の地域医療連携への取り組み

帝京皮膚科は病院の掲げる「ふたり主治医制」の方針にのっとり、地域の皮膚科診療を開業医、臨床病院の先生方とともに支えていきたいと考えています。お困りの症例はお気軽にご紹介ください。来院時や入院時、確定診断時、治療方針確定時など、こまめに経過をご報告させて頂いております。また、確定診断がつき、治療方針が定まった軽症例につきましては、積極的に逆紹介しておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先：

帝京大学医学部附属病院
医療連携室

TEL：03-3964-1498
FAX：03-3964-9849

紹介状をお持ちの方の
初診外来予約。